

ERの365日

～ 小児救急センター開設後1年を振り返る ～

静岡市を含めた近隣地域の小児救急体制が逼迫する中、新しい小児救急を掲げて静岡県立こども病院に小児救急センターが開設されてから早1年が経過しました。ご支援いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

小児救急センターは昨年6月開設以来、1年間の受診者数は5,493名(1日平均15名)、紹介患者数は427名(全受診者の8%)、そのうち当院かかりつけ患者数は2,296名(全受診者の42%)、入院患者数は1,173名(全受診者の21%)、ICU入室患者数は67名、受診者全体に占める外因性の割合は8%でした。救急車による受診者数は599名(全受診者の11%)、Dr.ヘリによる受診者は10名です。受診患者のトリアージの内訳は、それぞれカテゴリー1:1%、カテゴリー2:7%、カテゴリー3:52%、カテゴリー4:25%、カテゴリー5:15%でした。



救急センター入口



センター内部。最新鋭の医療機器と精鋭スタッフを配置。

開設1年目は、笑気やシヨ糖を使用した積極的な鎮痛を行なうこと、虐待の早期発見を目指したリスト作り、週1回のシミュレーショントレーニング、ネブライザーと加圧式定量噴霧式吸入器の有効性の比較、交代勤務と当直制の併用による医師の負担軽減などに取り組んできました。父兄や養護教諭などに予防の重要性に関する講義や小児応急処置の実習などを行なった「こども救急クラブ」も毎回30名以上の参加者を集めて3回実施いたしました。2年目の目標として、外因性疾患のより積極的な受入れとEMLAクリームの有効性に関する研究、地域の医療機関との連携を深め紹介患者数を増やすことなどを掲げております。

スタッフ一同、益々開かれた小児救急センターを目指して参りますので、今後ともご支援ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

小児救急センター長 加藤 寛幸

news

新外来棟建設工事ただいま進行中



安全祈願祭で挨拶する瀬戸院長

本年5月27日の安全祈願祭を皮切りに始まった新外来棟建設工事は、公共事業の増加や震災復興事業の影響によって、建設資材(主に鉄骨)の調達に時間を要することが当初から予想されていたため、比較的ゆっくりなテンポで進んできました。7月末に鉄骨が現場に届くと急にピッチが上がり、1週間ほどで骨組みが完成しました。現在、壁や天井部分のコンクリート打ちを行っており、工事の進捗は順調そのものです。これから台風シーズンを迎えますので、施工業者とともに、工事へ大きな影響が及ばないことを天に祈る毎日です。



病院の正面。グレーのシートで覆われた部分が新外来棟



特殊外来の紹介

●●● 新生児包括外来 ●●●

1500g未満で生まれた新生児科の患児を対象に、新生児科医師、作業療法士、臨床心理士、看護師等の様々な職種が連携、協力して多面的に診察します。成長や発達の節目となる年齢にあわせて、発達状況などを各分野の専門的な視点から評価し、発達・育児相談、アドバイス等を行っています。

● 日 時

毎週火曜日 午後 6枠/日

● 対象年齢

1歳6ヶ月・3歳(乳幼児健診の時期)、5歳(小学校入学前)、8歳(小学校入学後)

● 検査項目や内容

- 心理検査:新版K式発達検査2001、WPPSI知能診断検査、WISC-IV知能診断検査
- 作業療法評価:日常生活動作自立(食事・更衣・排泄などの評価)、感覚統合(不器用さや行動面など)の評価、対人関係・コミュニケーションの評価など
- 新生児科医師による診察
- 看護師による面談

● 流 れ

発達評価(発達・心理検査と作業療法評価) ⇒ 新生児包括外来で診察と看護面談 ⇒ 関係者によるカンファレンス ⇒ 新生児科外来において新生児包括外来の結果を踏まえた診察
(患児のペースや個性、生活環境は様々なので、それぞれに合ったアドバイスを行っている。カンファレンスでは、各職種の視点から、患児や家族に必要な支援などを提案しています。)

● 看護師面談では、こんな質問があります



☆1歳6ヶ月☆

兄弟にくらべて、
発達が遅い気がする。
少食で困っている。
哺乳瓶がやめられない



☆3歳☆

あんまり、ことばを話さない。
トイレに行くのを嫌がる。
幼稚園入園について



☆5歳☆

排泄、食事(偏食)
ことば(発音、吃音など)について
就学について、園での友達関係



☆8歳☆

担任の先生から、勉強について
いけないかもって言われちゃって。
このまま、普通学校で
いいのでしょうか。



さらに、かつて当院の新生児病棟に入院していた赤ちゃんたち・親御さん達の会である「ポコアポコ(少しずつゆっくりとの意)」が発行した低出生体重児用の育児手帳「リトルベビー ハンドブック」の作成のお手伝いもさせていただきました。大変役に立つ手帳ですので、ぜひ一度御覧になってください。

入手先:ポコアポコHP <http://pocoapoco.eshizuoka.jp/>

地域医療連携 Q & A

地域医療支援病院である当院は、日頃から、地域の開業医や保健機関等から多くの様々な医療相談を受け付けています。このコーナーでは、そうした相談の中から、良くある質問と回答を紹介いたします。皆様の業務の参考になれば幸いです。

〇脚の治療について

【質問】

1歳で歩き始め、現在1歳6か月の娘の〇脚が気になるとの相談がありました。治療が必要でしょうか。

【回答】

乳幼児期の〇脚は、殆どは生理的〇脚で治療は不要です。生理的〇脚とは、通常の発育過程に殆どの方におこる〇脚を指します。生理的〇脚では、運動発達に伴い関節弛緩性が減少することや、大腿四頭筋力が強くなることにより経年的に変形が自然軽快します。(図参照)

しかし、生理的〇脚と診断するためには、病的〇脚を鑑別する必要があります。鑑別を必要とする疾患として、くる病(ビタミンD欠乏性、低リン血症性など)。幼児型ブラウント病、骨系統疾患などが挙げられます。日光忌避、母乳栄養、偏食(アレルギー含む)などのため、近年ではビタミンD欠乏性くる病が増加傾向を示しています。生理的〇脚と判断するためには、成育歴や既往歴、更にはレントゲン撮影による骨の形の確認が必要です。



(整形外科 滝川一晴)

潜在性二分脊椎について

【質問】

腰仙尾椎部の陥凹に対して、潜在性二分脊椎を疑って紹介すべきでしょうか。どのような外見が、より可能性が高いと考えられるのでしょうか。

【回答】

潜在性二分脊椎には、以下のような病態が含まれます。

- ①脊髄脂肪腫：脊髄末端部に連続した脂肪塊が硬膜を貫いて皮下脂肪に連なる
- ②皮膚洞：陥凹の底から細い管が硬膜内・脊髄まで連なる、類皮腫を伴う場合も
- ③脂肪終糸・肥厚終糸：陥凹とは無関係に、脊髄末端終糸が脂肪に包まれるなどで肥厚、将来的に係留症候群へ陥る可能性あり

これらを受診当日(第1・3木曜)超音波エコーで鑑別します。怪しい所見があれば後日、MRIで精査・確認します。外見では、陥凹が深く底が見えない、浸出液などがある、感染を繰り返す、腰椎レベルで高い位置にある、ある広さの表皮欠損、発毛・血管腫・人尾など特異な附属物を伴う、などが潜在性二分脊椎の可能性が高い所見と思われれます。

いずれにせよ、受診した一日で診断がついてしまう簡単で非侵襲的な検査ですので、積極的にご紹介をお願いいたします。

(脳神経外科 田代 弦)

私達は認定看護師です!

このコーナーでは、当院に勤務する看護師のうち認定看護師資格を有する者を紹介します。今回は、小児救急看護認定看護師の塩崎麻那子です。

私は2010年に小児救急看護認定看護師の資格を取得しました。現在は、外来・小児救急センターで勤務しています。

小児救急看護認定看護師の役割は、救急センターを受診した子どもへのケアを行うだけでなく、子どもを安心して育児できるように家族の支援を行うなど、子どもの健やかな成長発達と安全のために、専門性をもって支援することです。

小児救急センターでの具体的な活動としては、“トリアージ”といって、救急センターを受診した子どもの症状の緊急性を判断し、すぐに診療が必要な具合の悪い子どもが長時間待合で待たされないことがないように調整したり、診察までの待ち時間を安心して過ごせるように応急対応を行ったりしています。家族の状況に応じて、ホームケアや次の受診のタイミングの指導も行っています。また、スタッフと協力してトリアージや小児救急看護に必要な知識・技術の指導や勉強会の開催、救急センターの環境整備などを行っています。その他の活動として、病院内の救急体制の整備を行っています。当院には、患者さんが重症化する前に状態の変化に気づき、介入するシステム(METコールシステム)があります。このシステムが円滑に運用されるよう、課題や問題点などを委員会で検討したり、救急カートの整備やスタッフへの教育などを行ったりしています。また、より適切な対応ができるよう、コール事例の状況や対応の振り返りも行っています。



院内外問わず、少しでも子どもと家族が安心できるような関わりや環境づくりを心がけて活動しています。



夏恒例 わくわく祭り開催!

当院では、子供達の療養環境の向上を図るため、年間を通じて様々なイベントを催しており、去る8月29日には、病院内で夏祭りを開催しました。

祭り会場の大会議室では、職員やボランティアグループによる模擬夜店が軒を連ね、出し物として、ダンスやハンドベル演奏、大道芸などが披露され、子供達の笑い声が溢れるイベントになりました。



news 遊水地の自然再生・活用に参画します!

このたび、当院は、巴川流域麻機遊水地自然再生協議会に入会しました。この協議会は、遊水地の自然環境の保全・再生・利活用など共に考え実行する組織として、NPO、地域住民、関係地方公共団体などで構成されています。今後、遊水地は緑地公園としても整備されると聞いているので、患者さんの療養環境整備の観点から、積極的に意見を提出していきます。また、この広報誌を通じて、四季折々の遊水地の自然を情報発信し、会員としての役割を果たしていきたいと考えています。

遊水地の四季

夏から秋にかけて、遊水地は様々な植物が生い茂り緑一色です。絶滅危惧種のオニバスも良く育ち巨大な葉が水面を覆い尽くして、所々に紫色の花を咲かせています。

